

- 1 派遣期日 令和5年10月26日(木)～10月27日(金)  
2 派遣先 〈中学校部会〉富山市立呉羽中学校 富山市呉羽町6662  
富山市民芸術創造センター 富山市呉羽町2247-3  
〈全体会〉 富山市芸術文化ホール 富山市牛島町9-28

3 研修内容

令和5年度 全日本音楽教育研究会全国大会 富山大会

大会主題 つなぐ 深める ひびき合う ～豊かな音楽の学び～

(1) 大会主題・研究内容について

①大会主題について

つなぐ…児童生徒と音楽をつなぐ、学びをつなぐ、人と人をつなぐ

深める…学びを深める、自信を深める、音楽とのつながりを深める

ひびき合う…旋律やハーモニーがひびき合う、人と人の心がひびき合う

②研究の視点

- ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善

「知識及び技能」を習得すること、「思考力・判断力、表現力等」を育成すること、「学びに向かう人間性等」を涵養することが偏りなく実現するよう、題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点からの授業改善を図っている。

- ・生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる力を育む授業づくり

児童生徒が自ら音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、捉えたことと自己のイメージや感情、捉えたことと生活や文化等と関連付けて考えることができる授業づくりに努めている。また、学習過程や学習活動において、音楽的な見方・考え方を働かせることができるよう、効果的な指導の在り方を研究している。

- ・指導と評価の工夫

PDC Aサイクルを機能させ、指導に生きる評価の在り方について研究している。

(2) 公開授業・研究協議

①歌唱 3年 「パート同士の関わりを意識しながら、表現を工夫して歌おう」

「群青」(混声三部合唱) 富山市立岩瀬中学校 教諭 碓井絵美

指導助言 長野県教育委員会参事兼課長 臼井学

【本時の目標】 **F**～**J** までの音楽表現を工夫する。(思考・判断・表現)

【展開】

○テクスチュア、曲の構成を意識して**F**～**J**の音楽表現を追求する。

- ・全体の曲の構造や曲想の変化、歌詞の内容との関わりを踏まえた上で、**F**～**J**をどのように歌うかについて意見交換する。

- ・知覚したことと感受したこととの関わりについて、前時に考えたことを基に、様々に歌い試しながら、ふさわしい表現について考える。

- ・全体で歌い合わせ、意見を共有することによって、考えを比較する。

【授業の様子】

- ・歌詞の内容と、強弱やテクスチュアを関わらせて、表現の工夫について積極的に話し合ったり、全体で自分の意見を述べたりしていた。

- ・考えたことをもとに歌唱練習することで、表現の変化を生徒自身が実感することができていた。

②鑑賞 1年 「音楽の特徴をとらえ、場面の変化のおもしろさを味わって聴こう」

交響詩「フィンランディア」 滑川市立滑川中学校 教諭 米多 彩

指導助言 名古屋学院大学元教授 江田司

【本時の目標】 前半部分の音楽の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、

場面の变化のおもしろさを味わって聴く。(思考・判断・表現)

【展開】

○前半部分の音楽を聴き、音色、旋律、強弱の音楽の特徴を知覚し、それらがどのような雰囲気を生み出しているかを捉える。

・前半部分の音楽を聴き、前時で自分が想像したこととの違いをもとに、前半部分の音楽の特徴を知覚したり、後半部分との共通点や相違点を聴き取ったりしたことをワークシートに記入する。

○全曲を通して聴き、前半部分と後半部分の音楽から、曲全体が表していることを想像する。

・聴き取ったことや感じ取ったことを参考にしながら、4人グループで曲が表現していることについて自由に話し合う。

【授業の様子】

・曲の後半部分を先に鑑賞させることで、生徒に驚きやインパクトを与えることができていた。

・曲を聴いて知覚したこと、感受したことを、生徒は素直に曲に向き合っていると同時に、考えたことを自ら発することができ、指名された生徒も自分の言葉で表現しようとする姿から、教師の普段からの受容的な態度や、学級経営の様子がうかがえた。

(3) ワークショップ

【合唱・歌唱】作曲家 三宅悠太氏

三宅悠太先生作曲の合唱曲の楽曲分析、指導法、表現の工夫など、合唱授業の展開を体験しながら学んだ。

「ぼくはぼく」(工藤直子作詞／三宅悠太作曲)

「花がほほえむ」(宮下奈都／三宅悠太作曲)

(4) 全体会

【指導講評】国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官  
文化庁 参事官(芸術文化担当)付 教科調査官

文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 志民一成氏 河合紳和氏

〈碓井先生の授業〉

歌う時間が少なかった。表現の工夫について生徒の意見が出る中で、教師が「具体的にどうしたらいいの？」と技能につなげるための問い返しが必要であった。パートごとに歌ったり、聴いたりすることで、実感を伴うようにしたい。教師がピアノ伴奏ではなく、指揮をして生徒と正対していた。ピアノではなく、時には指揮をして生徒の目を見て、向き合って指導したい。

〈米多先生の授業〉

生徒の発言から、教師と生徒の一問一答ではなく、一人の発言を対話的に、教室全体に広げることができていた。曲の後半部分から鑑賞させるという、おもしろい展開だった。注目する音楽の要素が多い。何か一つにしばって考えさせることもできる。

4 感想

公開授業では、生徒と教師の関わりが一番印象的で、生徒の意見を吸い上げる教師の受容的な態度や対話の仕方一つで、話し合いが広がったり深まったりしているのが参考になった。また、ICTの活用についても、“使用”にとらわれず、前時までの学習内容を提示しておいたり、プロジェクターで拡大して共有したりしておくのもよいと感じた。

ワークショップは、作曲家から直接歌いながら合唱授業の展開を学ぶという、とても貴重な機会となった。合唱は本来、一人一人違う人間が、目に見えない声をそろえていくこと。これは、音楽をどうやって歩ませていくかという意味がそろっていることが大切で、方向性をみんなで見付けていく作業だということがわかった。三宅先生の曲を使った合唱指導の中では、休符の取り扱いや、フレーズの持続性について、実際に歌いながら指導法について学ぶことができた。これは、すぐにでも授業や合唱コンクールの合唱練習で活かせる内容であった。

今回、合唱コンクール前ではあったが、音楽教育研究会の全国大会ということで2日間富山まで行かせていただいたが、合唱指導に即実践できる内容であり、今後の授業に活かせるような、非常に実りある研修をさせていただいたことに感謝したい。